

インターンシップ必修化の取組みについて ～中村学園大学短期大学部キャリア開発学科の事例～

手嶋 康 則 藤 島 淑 恵 梶 田 鈴 子

Practice of Required Internship : A Case of the Career Development Division, Nakamura Gakuen University Junior College

Yasunori Teshima Toshie Fujishima Suzuko Kajita

(2014年11月28日受理)

はじめに

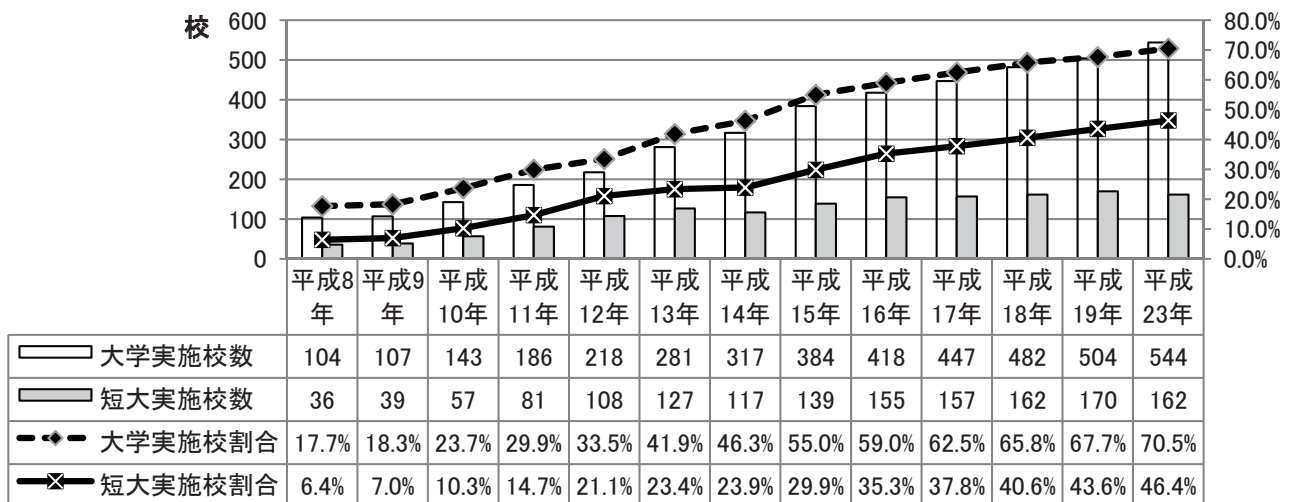
我が国の大学等におけるインターンシップは、政策的に普及・推進が図られてきた。平成9年に当時の文部省、通商産業省、労働省が、インターンシップのより一層の推進を図るため、「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」（以下「基本的な考え方」）を作成したが、平成26年4月「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）において、インターンシップに参加する学生数についての目標設定や、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制の強化、インターンシップ活用の推進等が提言された。「基本的な考え方」が改訂され、インターンシップに関する共通した基本的認

識及び今後の推進方策の在り方がまとめられるなど、インターンシップが更なる充実の方向へ進んでいる。

政府をはじめ、産業界や大学の積極的な取組みの結果、大学等におけるインターンシップの普及率はこの15年で大幅に増加し、短期大学においても実施校数、参加学生数は増加している（図表1）。「大学における平成23年度のインターンシップ実施状況について」（図表2）によると、平成23年度の短期大学において、単位認定を行う授業科目としてインターンシップを実施している学校数は324校であり、実施率は92.8%となった。参加学生数は73,253人（参加率49.4%）と約半数の学生がインターンシップに行っている。

しかし短期大学においては、教育実習、看護実習等の

図表1 大学等におけるインターンシップ実施状況の推移



文部科学省「大学等における平成19年度インターンシップ実施状況調査について」「大学等における平成23年度インターンシップ調査について」より作成

特定の資格取得に関係するインターンシップ（実習）が主で、免許・資格に関係しないインターンシップの実施校は、162校で実施率は46.4%（図表2）、参加学生数は4,652人と、短期大学学生総数のわずか3.1%に過ぎない（図表3）。

中村学園大学短期大学部キャリア開発学科（以下、本

図表2 単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップの実施学校数

学校種別	単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップの実施状況			(参考) 平成19年度 実施状況
	実施校数 (実施率)	うち特定の 資格取得に 関係しない もの 実施校数 (実施率)	うち特定の 資格取得に 関係するも の 実施校数 (実施率)	
大学	714校 (95.5%)	526校 (70.3%)	657校 (87.8%)	— (—%)
大学院	316校 (51.0%)	188校 (30.3%)	225校 (36.3%)	— (—%)
大学+大学院	725校 (93.9%)	544校 (70.5%)	663校 (85.9%)	504校 (67.7%)
短期大学	324校 (92.8%)	162校 (46.4%)	291校 (83.4%)	170校 (43.6%)
高等専門学校	57校 (100%)	57校 (100%)	0校 (0%)	61校 (100%)
合計	1,411校 (79.8%)	933校 (52.7%)	1,172校 (66.3%)	— (—%)

引用：文部科学省「大学等における平成23年度のインターンシップ実施状況について」

図表3 学校種別参加学生数及び参加率

学校種別	単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップへの参加状況			(参考) 平成19年度 実施状況
	参加人数 (参加率)	うち特定の 資格取得に 関係しない もの 参加人数 (参加率)	うち特定の 資格取得に 関係するも の 参加人数 (参加率)	
大学	325,488人 (12.6%)	56,519人 (2.2%)	268,969人 (10.5%)	45,913人 (1.8%)
大学院	10,911人 (4.0%)	6,042人 (2.2%)	4,869人 (1.8%)	3,813人 (1.5%)
大学+大学院	336,399人 (11.8%)	62,561人 (2.2%)	273,838人 (9.6%)	49,726人 (1.8%)
短期大学	73,253人 (49.4%)	4,652人 (3.1%)	68,601人 (46.3%)	4,968人 (2.7%)
高等専門学校	8,591人 (14.5%)	8,591人 (15.0%)	0人 (0%)	8,674人 (15.0%)
合計	148,243人 (13.7%)	75,804人 (2.5%)	342,439人 (11.2%)	63,638人 (2.1%)

注：参加率は平成23年度学校基本調査における学校種毎の学生数を基に算出。以下同じ。
引用：文部科学省「大学等における平成23年度のインターンシップ実施状況について」

学科)では、平成19年度からインターンシップに取り組んでいるが、平成25年度より必修化に踏み切った。本学科において、インターンシップはキャリア教育の中核となる重要な科目である。インターンシップはキャリア教育に効果的なのだろうか。その効果を検証するために、平成25年度入学生を対象にキャリア教育研究で大学生向けの尺度として使用される「キャリア意識尺度」（安達，2004）と「CDDQ-R（Career Decision-Making Difficulty Questionnaire-revised，進路選択の困難さに関する質問紙）」（若松，2001）によるアンケート調査を実施した。

本稿では、インターンシップ必修化の取組みの概要、及びアンケート調査の分析結果とインターンシップ後の企業からの学生の評価に基づくインターンシップの効果と課題を報告する。

1. インターンシップ必修化の取組み

本学科のインターンシップは、平成19年度から平成23年度までの5年間は、選択科目で定員制（50名）とし、春季のみ実施した。平成19年度の参加者数は、対象学年である1年生184人のうち29人（15.7%）であったが、平成20年度は49人（22.4%）、平成21年度と平成22年度は、それぞれ54人（29.3%）と50人（28.9%）と3割弱の学生が参加をした（図表4）。平成23年度は定員数を大幅に下回り参加率は30人（17.9%）と低調であったうえ、参加学生の実習後のアンケートでは例年の学生より、「実習先の仕事を難しいと感じた」「仕事が肉体的につらかった」「職場は精神的につらく感じた」といったネガティブな意見が多かった。

インターンシップに参加を希望する学生はもともと積極的と考えられるが、実習後の勉学や就職活動に対する積極性がさらに向上していることが、学生の実習報告や

図表4 本学科のインターンシップ参加学生数

年度	学生数	夏季		春季		参加者 数合計
		参加 者数	受入れ 企業 (団体) 数	参加 者数	受入れ 企業 (団体) 数	
平成19年度	184人	—	—	29人	21社	29人
平成20年度	219人	—	—	49人	30社	49人
平成21年度	184人	—	—	54人	33社	54人
平成22年度	173人	—	—	50人	30社	50人
平成23年度	168人	—	—	30人	25社	30人
平成24年度	160人	50人	28社	36人	23社	85人
平成25年度	170人	85人	44社	85人	47社	170人

事後アンケート、フィードバック面談によりわかった。「挨拶が大切」、「コミュニケーション力が大切」「メモを取ることが大切」、「報告・連絡・相談の重要性」などの「いつも指導を受けていることの重要性を改めて感じた」という意見が多く、「会社の仕組みや様々な職業があることが分かった」「業種、職種に興味を持つことができた」「事務職のイメージが変わった」「正確・丁寧は当たり前で、スピードが大切」「自分に足りない部分があることを痛感」といった「気づき」の意見も多かった。

そのため、こうした肯定的な意見を見る限りインターンシップを必修化することで、すべての学生が企業で実践的体験を積むことは、学生のキャリア意識の涵養や能力獲得において効果的であると判断した。必修化に踏み切るにあたり、平成24年度を試行期間と定め、1年次の夏季にもインターンシップを実施できるよう、受入先の拡大を行った。インターンシップを希望する学生は、夏季か春季のどちらかを選択できるようにした。夏季インターンシップは定員を超える申込みがあり、エントリーシートによる選考を行い、一部は春季への参加を促した。夏季インターンシップの企業実習報告会での実習体験者に触発されてか、夏季にエントリーしなかった学生も春季にエントリーし、春季の参加者は35名、この年のインターンシップ参加者数の合計は85名となり、参加割合は53.1%となった。半数以上の学生が参加しても支障なくインターンシップが実施でき、必修化に向けた見通しを描くことができたため、平成25年度からは選択必修科目（夏季、春季）とし、全員がインターンシップに参加（一部再履修の学生あり）することになった。

2. インターンシップの教育効果の検証

本節では、「キャリア意識尺度」と「CDDQ-R」によるアンケート調査の分析結果を報告する。アンケート調査は数回に分けて実施したが、これによりインターンシップの実習時期により学生のキャリア意識と進路選択の困難さに関する意識に差はあるのか（2-1, 2-5）、また実習前後でこれらの意識に差はあるのか（2-2, 2-3）、さらに1年次7月と2年次7月の比較（2-4）や就職内々定と就職未決定との関連（2-6, 2-7, 2-8）についても分析を試みた。

調査に使用した「キャリア意識尺度」はキャリア意識の「適職信仰」「受身」「やりたいこと志向」の三つの概念を測定する尺度である。「適職信仰」は“自分のやりたいことを実現しようという野心がある”“将来何か大きなことを成し遂げようと思っている”など、自分に

ぴったりの仕事に巡り合い、自己実現を果たせるとの期待や確信であり、「受身」は“将来はなるようになるんだと思う”“将来のビジョンは特にない”“あまり先のことは考えない”などキャリア選択について自分のこととして捉えようとしていない傾向、「やりたいこと志向」は、“将来は自分の好きなことを仕事にしたい”“自分の時間や自分の世界にこだわりたい”など自分の好きなことを仕事と結びつける考え方である（安達，2008）。質問項目は「適職信仰」9項目、「受身」9項目、「やりたいこと志向」10項目で、「まったく違う」（1点）から「まったくそのとおり」（5点）までの5段階で評定を求めた。

また「CDDQ-R」は、進路をなかなか決められない学生がどのような事柄に困難さを感じて決められないのかを調べるための尺度である。質問項目は、「思い悩む進路選択肢について」9項目、「興味や意欲について」10項目、「決めるうえでの現実的な障害について」7項目、「能力について」5項目、「進路選択の良いあり方について」4項目、「向き・不向きについて」6項目の計40項目で、「全然悩まされていない」（1点）から「すごく悩まされている」（6点）までの6段階で評定を求めた。

なお、アンケートは平成25年度入学生162名を対象に実施し、それぞれ検証する内容に応じて有効な回答をもとに各アンケート項目については順位和検定または符号付き順位和検定、学生一人ひとりの各項目の平均値については独立したサンプルまたは対応したサンプルの検定を用いて分析を行った。結果は次の通りであるが、検証する内容ごとに各アンケート項目の平均値と差、そして全体の平均値と差をまとめたものが、図表7から図表10である。

2-1 インターンシップの夏季実習生と春季実習生の意識の差（1年次）

実施時期：平成25年7月

検定方法：順位和検定

対象者数：キャリア意識尺度 夏季82名、春季68名
CDDQ-R 夏季82名、春季66名

インターンシップの実習前に、夏季実習生と春季実習生との間に意識の差があるのかを比較した。

キャリア意識尺度では、適職信仰の「いい仕事があるうちきつと見つかるだろう」と受身の「将来のために今から特別な行動をおこそうとは思わない」で夏季実習生と春季実習生には有意差が認められ、夏季実習生が春季実習生よりも低い値であった。

また、CDDQ-Rでは、「私はどんな能力を持っているのだろうか」「私が自分で持っていると思う能力は、本当に他の人たちよりも優れているのだろうか」「その進

路は本当に私の好みを実現してくれるだろうか」「どんな進路に私は向いているのだろうか」の4項目で有意差が認められ、すべて夏季実習生が春季実習生よりも高い値であった。春季実習生が夏季実習生よりも高い値となったのは40項目中3項目であり、全体的に、夏季実習生の方が春季実習生より進路選択に思い悩んでいることがわかる。

なお、CDDQ-Rについては平均値でも有意差が認められたことから、夏季に実習した学生は進路選択について思い悩む傾向が強かったことがわかる。また、キャリア意識の平均値について有意差は認められなかったが、将来のために主体的に行動しなければいけないと考えた学生が夏季実習生に多かったことがわかる。

2-2 夏季実習生の実習前後の意識の差

実施時期：平成25年7月と平成25年9月

検定方法：符号付き順位和検定

対象者数：キャリア意識尺度 76名

CDDQ-R 74名

インターンシップ夏季実習生は、実習前と実習後ではどのような意識の変化があるのかを比較した。

キャリア意識尺度では、適職信仰の「まだ自分自身も気付いていない才能があると思う」「夢を追い求めて駄目ならば、その時に考えればいい」「これだ」という仕事にいつかめぐり会うだろう、やりたいこと志向の「自分の好きな事ができる環境にいたい」「やりたい事にとことんこだわりを持ちたい」「自分の人生なのだから、好きにやった方がいいと思う」「自分の時間や自分の世界にこだわりたい」に有意差が認められた。このうち、「まだ自分自身も気付いていない才能があると思う」は実習後の方が高い値となったが、他は実習後の方が低い値になった。

また、CDDQ-Rでは、実習前に最も高い値であった向き・不向き「どんな進路に私は向いているのだろうか」「どんな進路に私は最も向いているのだろうか」の2項目に有意差が認められ、実習後の方が低い値となった。

全体的にみて、キャリア意識尺度では28項目中23項目、CDDQ-Rでは40項目中36項目で実習前より実習後の値が低くなったが、ともに平均値についても有意差が認められた。このことから、インターンシップを経験することにより、「まだ自分自身も気付いていない才能があると思う」と自分の可能性に期待する面もあるが、キャリア意識ではやりたいこと志向を中心に改善され、また、進路選択では主に自分の適性に関する悩みを中心に困難さの意識が軽減していることがわかる。

2-3 春季実習生の実習前後の意識の差

実施時期：平成26年1月と平成26年4月

検定方法：符号付き順位和検定

対象者数：キャリア意識尺度 45名

CDDQ-R 46名

夏季同様、インターンシップ春季実習生は、実習前と実習後ではどのような意識の変化があるのかを比較した。

キャリア意識尺度で有意差が認められたのは、適職信仰の「がむしゃらにやっていたら夢は叶うような気がする」だけであり、実習後の方が高くなった。適職信仰、やりたいこと志向のいずれも実習後に値が高くなったものが多く、夏季と異なる結果となった。また、受身の「将来のビジョンはとくにない」「将来のために今から行動をおこすのは面倒くさい」などで実習後に値の減少が見られたが、有意差までは認められなかった。また、平均値でも、春季実習生は実習前後に有意差は認められなかった。

一方、CDDQ-Rは、40項目中39項目で実習後に値が下がり、13項目で有意差が認められ、平均値でも有意差が認められた。夏季に比べて有意差が認められる項目が多いが、春季の学生は就職活動と重なるインターンシップであることから、夏季の学生より進路選択をより身近な事柄として認識し意識が高まっていることがその要因の一つと考えられる。

2-4 平成25年7月と平成26年7月の意識の差

実施時期：平成25年7月と平成26年7月

検定方法：符号付き順位和検定

対象者数：キャリア意識尺度 137名

CDDQ-R 135名

インターンシップを経験する前と、インターンシップを経験し就職活動に追われる学生が多い1年後では、どのような意識の差があるのかを比較した。

キャリア意識尺度では、28項目中9項目で有意差が認められた。適職信仰では、「自分のやりたい事を実現しようという野心がある」の値は低くなったものの、「いい仕事がそのうちきっと見つかるだろう」の値が高くなっていった。また、受身では、1年前より「将来のビジョンはとくにない」の値が低くなったが、その他の8項目はすべて値が高くなり、その中4項目では有意差も認められたことから、全体的に受身の傾向が強くなっていることが伺える。さらに、やりたいこと志向では、「自分の好きな事ができる環境にいたい」の値が低くなる一方、「やりたくない事を無理にする必要はない」の値が高くなるという結果になった。1年後に低くなった項目は、有意差が認められた9項目中3項目、全体では

28項目中9項目であった。したがって、キャリア意識は全体的に1年後の値の方が高くなる傾向にあることがわかったが、平均値でみても有意差が認められた。

また、CDDQ-Rでは、40項目すべてで1年後の値が低くなり、かつ有意差が認められた。もちろん、平均値でみても有意差が認められた。したがって、進路選択の際に感じる困難さは1年前より大きく改善されたといえる。

2-5 インターンシップの夏季実習生と春季実習生の意識の差（2年次）

実施時期：平成26年7月

検定方法：順位和検定

対象者数：キャリア意識尺度 夏季76名、春季77名
CDDQ-R 夏季76名、春季76名

インターンシップを夏季と春季で履修した学生の間で、平成26年7月時点でどのような意識の差があるのかを比較した。

キャリア意識尺度では、有意差が認められたのは適職信仰の「夢を追い求めて駄目ならば、その時に考えればいい」だけであり、夏季実習生より春季実習生の方が高い値となった。また、28項目中21項目で春季実習生の方が夏季実習生より値が高かった。2-3の結果からみても、特に春季実習生の方がキャリア意識についての課題が多いようである。

また、CDDQ-Rは、キャリア意識とは逆に40項目中32項目で夏季実習生の方が春季実習生より値が高く、特に「その進路先ではどんなことをする（させられる）のだろうか」「私が決意した進路のことを、私の大切な人たちにどうやって説得したらよいのだろうか」「今の大学・学部・専門は、目指す進路からすると不利なところではないだろうか」は有意差が認められた。就職の困難さに関する意識については、夏季実習生の方に課題が多いようである。

2-1の結果でもキャリア意識については春季実習生、就職の困難さに関する意識については夏季実習生が高い値を示す傾向にあった。したがって、項目によっては高低が逆転したものもあるが、全体としては1年後も同じ傾向となったことがわかる。なお、平均値でみると、キャリア意識、就職の困難さに関する意識ともに実習時期による有意差は認められなかった。

2-6 就職内々定状況による意識の差

実施時期：平成26年7月

検定方法：順位和検定

対象者数：

キャリア意識尺度 内々定73名、未決定80名

CDDQ-R 内々定72名、未決定80名

平成26年7月に実施した調査をもとに、平成26年9月5日時点での就職内々定状況により、学生にどのような意識の差があるのかを比較した。なお、実習時期による内々定者数と未決定者数に有意差は認められなかった。

キャリア意識尺度は、適職信仰の「将来、何か大きな事を成し遂げようと思っている」に有意差が認められ、内々定者の方が未決定者より高い値となった。また、有意差は認められなかったが、やりたいこと志向の「仕事では自分らしさを大切にしたい」も内々定者の方が未決定者よりも高い値となった。しかし、平均値でみると、有意差は認められなかった。

CDDQ-Rは、40項目中25項目で未決定者が内々定者より高い値となり、特に「私が進路に進める可能性はどのくらいありそうだろうか」「私はどういう方向の進路に興味がある（意欲を感じる）のだろうか」では有意差が認められた。キャリア意識とは異なり、未決定者の方が進路選択について困難さを感じていることがわかる。こちらもキャリア意識同様、平均値に有意差は認められなかった。

2-7 夏季実習生の就職内々定状況による意識の差

実施時期：平成26年7月

検定方法：順位和検定

対象者数：

キャリア意識尺度 内々定36名、未決定40名

CDDQ-R 内々定35名、未決定41名

2-6の比較を、インターンシップの夏季実習生に限定して行った。

キャリア意識尺度は、適職信仰の「将来、何かのきっかけで自分にスポットライトがあたるかもしれない」で有意差が認められ、内々定者が未決定者より高い値となった。また、有意差は見られなかったが、「いい仕事はそのうちきっと見つかるだろう」「将来のために今から行動をおこすのは面倒くさい」「本当に自分が好きな事だけをしていきたい」といった項目で内々定者が未決定者より低い値であった。なお、平均値には有意差は認められなかった。

また、CDDQ-Rについては、すべての項目で内々定者が未決定者より低い値となり、平均値にも有意差が認められた。項目としては、「私が進路に進める可能性はどのくらいありそうだろうか」「私はどういう方向の進路に興味がある（意欲を感じる）のだろうか」「良い進路選択をするにはどんな手順を踏まなくてはならないのだろうか」「これから選べる進路やその特徴について、どうしたら正確で最新の情報が手に入れられるのだろうか

か」「良い進路選択をするにはどんなことを考慮に入れなくてはいけないのだろうか」「進路に対する私の好みのうちどれを最も優先すべきだろうか」で有意差が認められた。特に値が高いということではないが、未決定者は内々定者と比べて「進路選択の良いあり方」についての悩みが大きく、就職活動そのものが滞りかねない状況であることが推察される。

2-8 春季実習生の就職内々定状況による意識の差

実施時期：平成26年7月

検定方法：順位和検定

対象者数：

キャリア意識尺度 内々定37名、未決定40名

CDDQ-R 内々定37名、未決定39名

2-6の比較を、インターンシップの春季実習生に限定して行った。

キャリア意識は、4つの項目で有意差が認められた。その中で、適職信仰の「将来、何か大きな事を成し遂げようと思っている」とやりたいこと志向の「仕事では自分らしさを大切にしたい」は内々定者の方が高く、受身の「将来のことはその時になってから考えれば良い」「将来どうなるかは、そのときの流れだと思う」で内々定者の方が低い値となった。特に内々定者は「仕事では自分らしさを大切にしたい」は5段階中4.32であり、夏季-内々定、夏季-未決定、春季-内々定、春季-未決定の4グループの中で最も高い値となっている。仕事への意欲とこだわりに加えて、主体的な就職活動で内々定に至る傾向が強いようである。なお、平均値に有意差は認められなかった。

CDDQ-Rでは、平均値に有意差は認められなかったが、夏季実習生と異なり、どちらかといえば未決定者が内々定者より進路選択に関する悩みが少ない傾向にあることがわかる。特に「今の大学・学部・専門は、目指す進路からすると不利なところではないだろうか」「私が自分で持っていると思う能力は、本当に他の人たちよりも優れているのだろうか」「進路に対する私の好みを実現されなくても、その進路を選ぶべきだろうか」では有意差が認められ、いずれも未決定者の方が低い値となった。

春季実習生の未決定者は、進路選択に関する困難さを内々定者より感じていないにも関わらず内々定に至らないという結果となった。また、春季実習生で未決定者の特徴として、夏季-内々定、夏季-未決定、春季-内々定、春季-未決定の4グループの中でキャリア意識の受身9項目中8項目がもっとも高くなっていることがあげられる。これより、主体的に就職活動に取り組めていない可能性が考えられる。

2-9 本節のまとめ

キャリア意識については、夏季実習生はインターンシップ実習後の改善が認められたが、春季実習生にはほとんど改善が認められなかった。しかも、夏季実習生も含めて、平成26年7月時点では、各項目について値が高くなる傾向が見られた。

また、CDDQ-Rについては、夏季、春季いずれのインターンシップでも進路選択の困難さが軽減する傾向が見られた。図表3で夏季実習生と春季実習生の実習前の値を比較すると多くの項目で春季実習生の方が高い値であるのに対し、実習後の値を比較すると多くの項目で春季実習生の方が逆に低い値となっている。従って、改善の効果は、春季実習生の方が夏季実習生より顕著であったことがわかる。

さらに、春季実習生は就職未決定者の方が進路選択の困難さに関する意識が低いという結果が出ており、進路選択の困難さを軽減するだけでは就職内々定に繋がるわけではないことがわかる。そして、春季実習生の未決定者の要因として考えられるのが、キャリア意識で「受身」の傾向が強かったことである。先行研究では、職業未決定（何らかの理由で職業を選べない、あるいは、選ぶとしない状態）にやりたいこと志向は影響がなく、適職信仰は抑制的に作用し、そして受身は未決定に結びつくという結果が出ている（安達，2004）。2-6の結果もこれを裏付けている。

なお、適職信仰は、早期離職に結びつくとも言われている。そのため、就職について理想と現実のすり合わせをしっかりと行う必要がある。また、受身姿勢にならないよう、就職を自分の問題として主体的な関わりを持てるような働きかけが必要になる。インターンシップはもちろんのこと、その他のキャリア形成科目においても、これらのことを念頭においた教育改善が重要な課題である。

3. 企業評価にもとづく事前研修の課題

3-1 事前の研修及び対策

事前研修は7コマであり、①オリエンテーション、実習の心構え、②自己PR、③2年生・実習体験者との情報交換、④名刺作成、履歴書提出、⑤ビジネスマナーの確認、礼状の書き方、⑥業界・企業研究の発表、⑦企業実習課題の指導、誓約書作成、アンケートである。

事前研修時からインターンシップは始まっているという意識を持たせるため、教室をビジネスシーンと想定し、授業に臨むよう指導している。しかし、7コマ延べ630分の事前研修だけでは十分な指導ができないのが現状である。

そのため、日頃から本学科ではマナー教育に力を入れている。例えば、授業開始時は「よろしくお願ひいたします」、座る際は「失礼いたします」、授業終了後は「ありがとうございました」の挨拶を分離礼で行う。週に1度の「ビジネスデイ」には、リクルートスーツとそれにふさわしい身だしなみで登校し、教室に入るときはカバンを肩にかけずに手に持ち替える、授業中に出た消しゴムのカスは放置せずにティッシュ等を集めてゴミ箱に捨てるということなどを指導している。

いずれも細かいことではあるが、インターンシップや就職活動、そして社会に出た際に習慣として、意識せずともできるようになることを目指している。これらを入学前教育や必修授業の中で指導している。学生自身もマナー教育に力を入れていることを承知のうえで入学している者が大半のため、学生自身のマナーに対する意識は高いと感じられる。

また、日頃のマナー指導以外の取組みとして、本学科では3つの検定資格を取得することになっている。その中の一つ、公益財団法人実務技能検定協会が主催する秘書技能検定（通称：秘書検定）の2級を1年次の6月に受験する。秘書検定は仕事をするうえでの心構えや社会常識等の一般知識、人間関係、敬語をはじめとする話し方、来客応対、交際業務など、ビジネスシーンで必要とされる基本的な知識が問われる（公益財団法人実務技能検定協会，2014）。その受験対策として、前学期授業の開始に合わせ、週に2日それぞれ2コマの計4コマ「キャリアサポート講座」を開講している。高校時に取得している学生を除き、原則全員参加である。暦の都合で年度によって増減があるが36コマ程度の時間をかけている。

検定試験に向けた勉強を通じ、仕事をするうえでの心構えやビジネスマナーなどの基本を学んではいるが、その知識を実際に使うのが苦手な学生が多い。例えば、正しい敬語に書き換えることはできても、話すときには敬語が出てこない。また、普段から携帯電話同士で連絡を

取るため自宅の固定電話に電話をする、急須でお茶を入れるといった習慣がない学生も多く、実体験の乏しさから電話応対やお茶出しに苦手意識を持っていると考えられる。

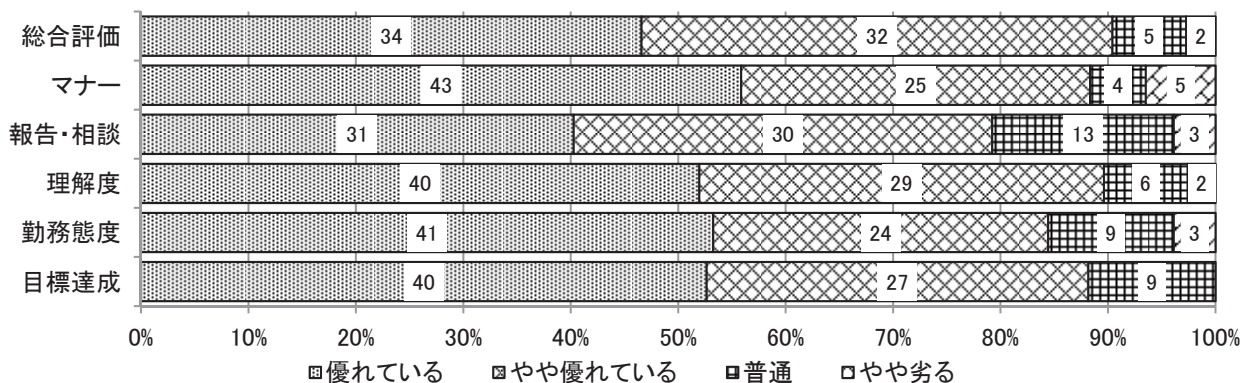
以上のような現状を踏まえて、平成26年度からはこれまで2年次前学期に開講していたオフィスワーク・マナーの演習科目である「オフィスマネジメント」の授業を1年次前学期に開講期を変更した。あわせて、インターンシップの準備を兼ね、Excelの基本操作を学ぶ「コンピュータ基礎演習B」を新設して「コミュニケーション基礎」とともに1年次前学期に開講することにした。さらに、企業に提出する履歴書については、事前に指導主任による添削指導を実施し、事前研修の改善を図った。

3-2 事前研修における今後の課題

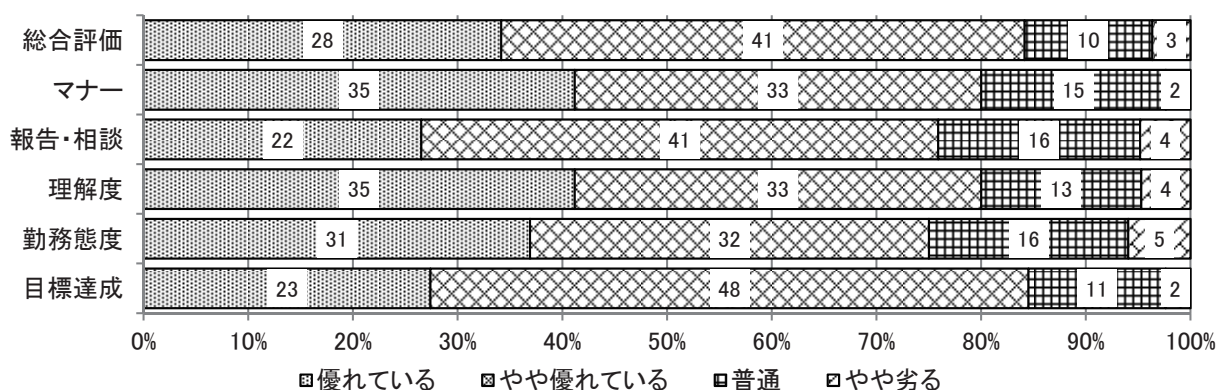
平成25年度実習生の実習受け入れ先の企業からの評価をまとめたものが図表5と図表6である。企業訪問の際、本学科の学生は「きちんとしている」「まじめである」という評価をいただくことが多く、実際にマナーについては48.1%の学生が「優れている」と企業から評価されている。その反面、「おとなしい」「積極性が足りない」という意見が少なくないが、報告・相談で「優れている」という評価の学生が約3割にしか達していない結果にもそれが現れている。自己紹介や業界・企業研究の発表など人前で話す機会は少なからずあるものの、さらに機会を増やすなどし、学生自らが積極的に周囲とコミュニケーションを取れるようにすること、そして主体的に実習に関わる姿勢を身に付けさせることが事前研修における今後の課題である。

また、図表5・6からはすべての項目で夏季実習生が春季実習生より良い評価を得ていることがわかる。分割表検定を行ったところ、「目標達成」(p<0.01)と「マナー」(p<0.05)に有意差が認められ、夏季実習生の方が統計的にも評価が高いことがわかった。必修化に伴

図表5 13H夏季インターンシップ企業評価（企業回答があった実習生76名の結果）



図表6 13H春季インターンシップ企業評価（企業回答があった実習生87名の結果）



い、春季に加えて夏季のインターンシップを始めるにあたり、入学から半年足らずの学生を実習に出すのは早すぎるのではないかと懸念があった。しかし、平成25年度の入学生については、夏季のインターンシップにエントリーする学生はモチベーションが高く、マナーもしっかりと身につけていたことがわかる。むしろ、インターンシップにあまり積極的でない学生が含まれていたと推測される春季実習生について、夏季実習生以上の事前指導の強化が必要であったと考える。

今後の継続的な調査の結果にもよるが、夏季と春季のそれぞれの実習生の特性に応じたより適切な事前指導の在り方を検討することも重要な課題である。

4 まとめ

本研究でわかったことは、大きく分けて以下の2点である。

4-1 インターンシップの効果と課題

本学科におけるインターンシップの教育効果を「キャリア意識」の観点からみると、夏季は効果が認められたが、春季は認められなかった。また、キャリア意識の中で、心理的な職業未決定につながる「受身」に限ってみると、夏季も春季も効果が認められなかった。

一方、「進路選択の困難さに関する意識」という観点から見ると、夏季も春季もともに改善の効果があり、特に春季の効果は顕著である。この結果より、インターンシップは進路選択の際に感じる困難さを軽減する効果があったといえる。

また、平成26年9月上旬時点での就職未決定者と実習時期による「キャリア意識」「進路選択の困難さに関する意識」の関係として、夏季の未決定者は進路選択に対して困難さを感じているのに対し、春季の未決定者は進路選択に対する困難さを決定者より感じていないにも係わらず受身の姿勢が最も強かった。この春季未決定者の状況であるが、受身姿勢が強い故に進路選択を自分の

事としてしっかりと受け止めておらず、そのため進路選択に対する困難さの意識が低くなった可能性もあると考えている。また、春季の決定者は適職信仰の値が高い傾向にあることも分かった。3-2で述べた企業評価の結果とも合わせると、春季実習生の方が夏季実習生より実習前も実習後も課題が多いと言える。

本学科生を対象とした平成23年度の調査でも「受身」の改善が必要であるという結果が出ていたが（本山和子他，2011）、今回の研究ではインターンシップを必修化しても「受身」姿勢の改善ができていないという結果になった。楠奥繁則（2006）は本研究とは異なる「GSES（Generality Self-Efficacy Scale）」（坂野雄二他，1986）や「進路選択に対する自己効力尺度」（浦上昌則，1995）を使った研究で、インターンシップを経験することで一般性や進路選択に対する自己効力感が高まったが、その効果が得られたのは、「事前研修によりキャリアに対して自身の成熟した目標を持つことができ、その状態でインターンシップ研修に参加した結果」と推測している。また、インターンシップに参加する学生が「仕事観を持って実習に参加すること」「目的意識を持って参加すること」が、インターンシップに参加した後の自己効力感に好ましい影響を及ぼすという報告もある（菅原良他，2013）。これらから、インターンシップの教育効果を高めるためには、仕事観や目的意識の涵養にも力を入れた事前研修が必要であろう。

4-2 キャリア形成科目の課題

4-1で述べたことに加えて、「キャリア意識尺度」と「CDDQ-R」のアンケート調査を通して、本学科がキャリア形成科目として開講している1年次後学期の「キャリア形成演習Ⅰ」及び2年次前学期の「キャリア形成演習Ⅱ」の課題も見えてきた。

例えば、夏季実習生の実習後と2年生になってからの「キャリア意識尺度」を比較すると、28項目中21項目で高くなっている。特に、受身において、「将来の

ビジョンは特にない」では低くなったものの、平均で0.24も高い。これは、インターンシップの実習効果を、これらの科目では維持できていない可能性を示している。

また、「進路選択の困難さに関する意識」については、春季実習生の実習後（3月）と2年次の7月では平均で0.42も値が下がっていることから、「キャリア形成演習Ⅱ」は効果を上げていることが伺える。それに対して、春季実習生の1年次7月と実習前（1月）の値を比較すると平均でも0.35高くなっており、「キャリア形成演習Ⅰ」では改善できていない可能性を示している。また、これらの科目以外に、インターンシップの事後研修の在り方に課題があることも考えられる。今後、インターンシップによる成果の定着とともに、学生のさらなる意識改善に向けて、インターンシップとキャリア形成科目（キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ）の教育内容の検証を行う必要がある。

以上が本研究により得られた結果である。

なお、平成27年度より就職活動期間が短期化される。それに伴い、学生は十分な適性を確認できぬまま進路を決定してしまう可能性が高くなり、せつかく就職しても早期離職の一層の増加を招くことが懸念される場所である。今後はインターンシップの成果を学生ひとり一人の進路選択に結び付けるとともに、ミスマッチ就職による早期離職を防止することも念頭に、インターンシップ・プログラムの改善に努めていきたい。

引用・参考文献

- 安達智子 2004 「大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援」『日本労働研究雑誌』46(12), pp.27-37.
- 安達智子 2008 「女子学生のキャリア意識」『心理学研究』79(1), pp.27-34.
- 経済産業省 1997 「経済構造の変革と創造のための行動計画」
<http://www.unisys.co.jp/PDF/ESPRIT/74/esu74-5.pdf>
- 公益財団法人実務技能検定協会 2014 「ビジネス系検定試験平成26年度実施企画書」
- 楠奥繁則 2006 「自己効力論からみた大学生のインターンシップの効果に関する実証研究」『立命館経営学』44(5), pp.169-184.
- 文部科学省 2013 「大学等におけるインターンシップの推進について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1346604.htm
- 文部科学省 2013 「大学等における平成23年度のインターンシップ実施状況について」

http://www.jasso.go.jp/career/documents/internship_mext20130628.pdf

- 本山和子・梶田鈴子 2012 「家政系短期大学生のキャリア意識—達成意欲とキャリア意識、自己効力との関連—」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』44, pp.83-94.
- 坂野雄二・東條光彦 1986 「一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み」『行動療法研究』12, pp.73-82.
- 菅原良・渡部淳 2013 「就業体験型インターンシッププログラムに関する総括的評価—2012年度における就業体験の自己効力感に着目して—」『北海道文教大学論集』14, pp.185-192.
- 若松養亮 2001 「大学生の進路未決定者が抱える困難さについて—教員養成学部 of 学生を対象に—」『教育心理学研究』49(2), pp.209-218.

図表7 インターンシップに伴うキャリア意識に関するアンケート結果(2-1~2-4)

分類	アンケート項目	(1)実習時期による比較			(2)夏季実習生実習前後の比較			(3)春季実習生実習前後の比較			(4)H25.7とH26.7の比較		
		夏季	春季	差	前	後	差	前	後	差	H25.7	H26.7	差
適職信仰	将来、何か大きな事を成し遂げようと思っている	3.26	3.12	0.14	3.25	3.25	0.00	2.73	2.82	-0.09	3.18	3.11	0.07
	自分のやりたい事を実現しようという野心がある	3.71	3.76	-0.06	3.68	3.68	0.00	3.62	3.78	-0.16	3.72	3.53	0.19*
	まだ自分自身も気が付いていない才能があると思う	3.04	3.06	-0.02	3.01	3.28	-0.26*	3.31	3.27	0.04	3.04	3.18	-0.14
	将来、何か大きなチャンスがめぐって来るような気がする	3.22	3.10	0.12	3.24	3.17	0.07	3.04	3.20	-0.16	3.18	3.28	-0.10
	将来、何かのきっかけで自分にスポットライトがあたるかもしれない	2.93	2.94	-0.01	2.93	2.83	0.11	2.87	3.02	-0.16	2.96	3.05	-0.09
	がむしやらにやっついていれば夢は叶うような気がする	2.82	3.03	-0.21	2.76	2.76	0.00	2.84	3.20	-0.36*	2.93	3.07	-0.13
	夢を追い求めて駄目ならば、その時に考えればいい	3.10	3.09	0.01	3.07	2.80	0.26*	3.24	3.13	0.11	3.10	3.26	-0.15
	いい仕事がそのうちきつと見つかるだろう	2.60	2.93	-0.33*	2.61	2.63	-0.03	2.84	2.93	-0.09	2.77	3.07	-0.30**
	「これだ」という仕事にいつかめぐり会うだろう	3.29	3.10	0.19	3.32	3.11	0.21*	3.29	3.49	-0.20	3.21	3.36	-0.15
	今から将来についてあれこれ考えても仕方ない	1.96	2.10	-0.14	1.93	1.99	-0.05	2.18	2.27	-0.09	2.04	2.42	-0.38***
受身	将来のビジョンはとくにない	2.79	2.78	0.01	2.78	2.83	-0.05	2.84	2.58	0.27	2.81	2.58	0.23*
	将来のために今から特別な行動をおこそうとは思わない	2.26	2.60	-0.35*	2.22	2.22	0.00	2.49	2.51	-0.02	2.44	2.65	-0.21
	将来のことはその時になってから考えれば良い	1.90	2.13	-0.23	1.86	1.91	-0.05	2.24	2.31	-0.07	2.01	2.47	-0.46***
	あまり先のことは考えない	2.34	2.40	-0.06	2.33	2.29	0.04	2.60	2.49	0.11	2.34	2.66	-0.32***
	将来はなるようになるんだと思う	3.13	3.03	0.10	3.16	3.00	0.16	3.16	3.07	0.09	3.09	3.14	-0.04
	将来のために今から行動をおこすのは面倒くさい	2.17	2.29	-0.12	2.16	2.08	0.08	2.53	2.31	0.22	2.24	2.39	-0.15
	将来の仕事は何とかなると思う	2.57	2.56	0.01	2.55	2.47	0.08	2.60	2.67	-0.07	2.58	2.82	-0.24*
	将来どうなるかは、そのときの流れだと思う	3.09	3.12	-0.03	3.09	2.88	0.21	3.42	3.44	-0.02	3.11	3.21	-0.10
	仕事では自分らしさを大切にしたい	4.10	3.99	0.11	4.09	3.96	0.13	4.04	4.16	-0.11	4.05	4.10	-0.05
	自分の好きな事ができる環境にいたい	4.24	4.22	0.02	4.24	4.03	0.21*	4.11	4.20	-0.09	4.23	4.02	0.20**
やりた(と)志向	あまり拘束されず自由な生活をおくりたい	3.82	3.87	-0.05	3.86	3.82	0.04	3.96	3.91	0.04	3.83	3.80	0.04
	本心に自分が好きな事だけをしていきたい	2.93	2.88	0.04	2.91	2.88	0.03	2.82	2.87	-0.04	2.89	3.04	-0.15
	進路選択でもっとも優先するのは、自分がやりたい事である	3.37	3.54	-0.18	3.33	3.30	0.03	3.40	3.56	-0.16	3.43	3.34	0.09
	やりたい事にとことんこだわりたい	3.52	3.53	-0.01	3.53	3.34	0.18*	3.49	3.56	-0.07	3.52	3.45	0.07
	将来は好きな事を仕事にしたい	3.91	3.93	-0.01	3.89	3.78	0.12	3.82	4.00	-0.18	3.91	3.85	0.06
	やりたくない事を無理にする必要はない	2.66	2.65	0.01	2.62	2.61	0.01	2.80	2.78	0.02	2.69	3.03	-0.34***
	自分の人生なのだから、好きにやっただ方がいいと思う	3.59	3.54	0.04	3.59	3.30	0.29**	3.60	3.78	-0.18	3.58	3.72	-0.13
	自分の時間や自分の世界にこだわりたい	3.61	3.66	-0.05	3.62	3.39	0.22*	3.56	3.82	-0.27	3.64	3.64	0.00
	平均	3.07	3.11	0.04	3.06	2.99	0.07*	3.12	3.18	-0.06	3.09	3.19	-0.10*

*p < 0.05, **p < 0.01, ***p < 0.001

図表8 インターンシップ実習時期と就職内定状況によるキャリア意識に関するアンケート結果（2-5～2-8）

分類	アンケート項目	(5)H26 実習時期による比較			(6)内定状況による比較			(7)夏季実習生内定状況による比較			(8)春季実習生内定状況による比較		
		夏季	春季	差	内々定	未決定	差	内々定	未決定	差	内々定	未決定	差
適職信仰	将来、何か大きな事を成し遂げようと思っている	3.17	3.05	0.12	3.33	2.91	0.42**	3.31	3.05	0.26	3.35	2.78	0.58**
	自分のやりたい事を実現しようという野心がある	3.51	3.64	-0.12	3.62	3.54	0.08	3.42	3.6	-0.18	3.81	3.48	0.34
	まだ自分自身も気が付いていない才能があると思う	3.14	3.19	-0.05	3.21	3.14	0.07	3.22	3.08	0.15	3.19	3.20	-0.01
	将来、何か大きなチャンスがめぐって来るような気がする	3.28	3.35	-0.07	3.36	3.28	0.08	3.42	3.15	0.27	3.30	3.40	-0.10
	将来、何かのきっかけで自分にスポットライトがあたるかもしれない	3.01	3.10	-0.09	3.21	2.93	0.28	3.25	2.8	0.45*	3.16	3.05	0.11
	がむしやらにやっついていれば夢は叶うような気がする	2.93	3.17	-0.23	3.08	3.03	0.06	2.97	2.9	0.07	3.19	3.15	0.04
	夢を追い求めて黙目ならば、その時に考えればいい	3.05	3.47	-0.41*	3.25	3.28	-0.03	3.08	3.03	0.06	3.41	3.53	-0.12
	いい仕事が見つかるだろう	2.95	3.09	-0.14	2.89	3.14	-0.25	2.72	3.15	-0.43	3.05	3.13	-0.07
	「これだ」という仕事にいつかめぐり会うだろう	3.36	3.39	-0.03	3.4	3.35	0.05	3.39	3.33	0.06	3.41	3.38	0.03
	今から将来についてあれこれ考えても仕方ない	2.38	2.49	-0.11	2.44	2.44	0.00	2.53	2.25	0.28	2.35	2.63	-0.27
受身	将来のビジョンはとくにない	2.51	2.68	-0.16	2.48	2.7	-0.22	2.42	2.6	-0.18	2.54	2.80	-0.26
	将来のために今から特別な行動をおこそうとは思わない	2.61	2.66	-0.06	2.55	2.71	-0.16	2.56	2.65	-0.09	2.54	2.78	-0.23
	将来のことはその時になってから考えれば良い	2.41	2.49	-0.09	2.37	2.53	-0.16	2.44	2.38	0.07	2.30	2.68	-0.38*
	あまり先のことは考えない	2.58	2.77	-0.19	2.58	2.76	-0.19	2.58	2.58	0.01	2.57	2.95	-0.38
	将来はなるようになるんだと思う	3.03	3.25	-0.22	3.10	3.18	-0.08	3.03	3.03	0.00	3.16	3.33	-0.16
	将来のために今から行動をおこすのは面倒くさい	2.38	2.43	-0.05	2.30	2.50	-0.20	2.22	2.53	-0.30	2.38	2.48	-0.10
	将来の仕事は何とかなると思う	2.80	2.83	-0.03	2.73	2.90	-0.17	2.75	2.85	-0.10	2.70	2.95	-0.25
	将来どうなるかは、そのときの流れだと思う	3.17	3.27	-0.10	3.11	3.33	-0.22	3.14	3.20	-0.06	3.08	3.45	-0.37*
	仕事では自分らしさを大切にしたい	4.13	3.99	0.14	4.26	3.88	0.39	4.19	4.08	0.12	4.32	3.68	0.65*
	自分の好きな事ができる環境にいたい	4.01	4.05	-0.04	4.11	3.96	0.15	4.11	3.93	0.19	4.11	4.00	0.11
やりたこと志向	あまり拘束されず自由な生活をおくりたい	3.76	3.86	-0.09	3.89	3.74	0.15	3.86	3.68	0.19	3.92	3.80	0.12
	本当に自分が好きな事だけをしていきたい	3.07	2.99	0.08	2.92	3.13	-0.21	2.89	3.23	-0.34	2.95	3.03	-0.08
	進路選択でもっとも優先するのは、自分がやりたい事である	3.28	3.39	-0.11	3.27	3.39	-0.11	3.25	3.3	-0.05	3.30	3.48	-0.18
	やりたい事にとことんこだわりを持ちたい	3.39	3.47	-0.07	3.41	3.45	-0.04	3.25	3.53	-0.28	3.57	3.38	0.19
	将来は好きな事を仕事にしたい	3.80	3.79	0.01	3.81	3.79	0.02	3.81	3.80	0.01	3.81	3.78	0.04
	やりたくない事を無理にする必要はない	3.03	2.99	0.04	3.03	2.99	0.04	3.14	2.93	0.21	2.92	3.05	-0.13
	自分の人生なのだから、好きにやった方がいいと思う	3.74	3.61	0.13	3.67	3.68	0.00	3.58	3.88	-0.29	3.76	3.48	0.28
	自分の時間や自分の世界にこだわりたい	3.66	3.55	0.11	3.63	3.58	0.06	3.67	3.65	0.02	3.59	3.50	0.09
	平均	3.15	3.21	0.06	3.18	3.18	0.00	3.15	3.15	0.00	3.22	3.20	0.02

*p < 0.05, **p < 0.01

図表9 インターンシップに伴う進路選択の困難さに関するアンケートの結果(2-1~2-4)

分類	アンケート項目	(1)実習時期による比較		(2)夏季実習生実習前後の比較		(3)春季実習生実習前後の比較		(4)H25.7とH26.7の比較					
		夏季	春季	差	前	後	差	前	後	差			
思い描く進路の選択肢	自分が進むことのできる進路にはどんなものがあるのだろうか	4.26	4.09	0.17	4.30	4.15	0.15	4.54	3.78	0.76***	4.22	3.43	0.79***
	私が進むことのできる進路にはどんなものがあるのだろうか	4.35	4.15	0.20	4.36	4.28	0.08	4.52	3.80	0.72***	4.30	3.53	0.77***
	その進路先ではどんなことをする(させられる)のだろうか	3.74	3.76	-0.01	3.78	3.74	0.04	3.96	3.57	0.39*	3.79	3.34	0.44**
	その進路に進んだらどんな資質が求められる(必要とされる)のだろうか	3.87	3.94	-0.07	3.86	3.99	-0.12	3.93	3.67	0.26	3.92	3.29	0.63***
	ふつう、その進路に進んだ後はどういうコースをたどることになるのだろうか	3.77	3.70	0.07	3.74	3.68	0.07	3.85	3.26	0.59***	3.76	3.17	0.59***
	その進路先の人々と自分とはうまくやっていると聞いているのだろうか	3.76	3.52	0.24	3.86	3.81	0.05	4.04	3.78	0.26	3.69	3.45	0.24*
	その進路の特徴や性質(先導的、民主的、安定しているなど)が活かせるのだろうか	3.51	3.38	0.13	3.55	3.65	-0.09	3.50	3.41	0.09	3.49	3.06	0.43***
	その進路では私の働いた面や大学で学んだことが活かせるのだろうか	3.63	3.44	0.19	3.68	3.42	0.26	3.67	3.13	0.54*	3.59	3.04	0.54**
	将来、もつと自分と合った進路の選択肢が現れるのだろうか	3.83	3.77	0.06	3.86	3.68	0.19	3.72	3.63	0.09	3.85	3.18	0.67***
	私はどういう方向の進路に興味がある(意欲を感じる)のだろうか	4.16	3.74	0.42	4.20	3.92	0.28	4.33	3.83	0.50*	3.98	3.23	0.75***
興味や意欲	私はどう進路に最も強く興味を持っている(意欲を感じる)のだろうか	4.04	3.71	0.32	4.05	3.88	0.18	4.11	3.78	0.33	3.89	3.17	0.72***
	その進路は私が持っている興味や意欲と本当に合ったところなのだろうか	4.04	3.79	0.25	4.05	3.82	0.23	4.13	3.83	0.30	3.93	3.30	0.63***
	私が何に興味や意欲を持つたかという事は将来変わってしまうのではないだろうか	3.73	3.38	0.35	3.72	3.46	0.26	3.67	3.26	0.41*	3.56	3.01	0.56***
	興味や意欲が持たないその進路でも選ぶべきなのだろうか	3.89	3.48	0.41	3.91	3.61	0.30	3.85	3.59	0.26	3.70	3.09	0.61***
	採用される(合格する)可能性があまりなくても、その進路を選ぶべきだろうか	4.02	3.83	0.19	4.07	3.96	0.11	3.83	3.54	0.28	3.96	3.18	0.79***
	たくさん時間とエネルギーが必要になるにもかかわらず、その進路を選ぶべきなのだろうか	3.56	3.50	0.06	3.53	3.57	-0.04	3.85	3.22	0.63*	3.60	2.90	0.70***
	私が決意した進路のことを、私の大切な人たちにどうやって説得したらよいのだろうか	2.96	2.76	0.21	3.01	2.80	0.22	2.54	2.59	-0.04	2.93	2.47	0.46***
	進路の計画を立てる上で、性別や年齢などによる差別をどうやったら克服できるのだろうか	2.88	2.74	0.14	2.88	2.82	0.05	3.02	2.80	0.22	2.85	2.53	0.32**
	自分にとって都合な土地に行くことになるその進路でも、選ぶべきなのだろうか	3.43	3.45	-0.03	3.43	3.15	0.28	3.28	3.13	0.15	3.47	2.92	0.55***
	私は自分が計画する進路のために必要なお金をどうやって用意したらよいのだろうか	3.76	3.56	0.20	3.74	3.58	0.16	3.61	3.33	0.28	3.73	2.81	0.91***
能力	今の大学・学部・専攻は、目指す進路からすると不利なところではないだろうか	3.34	3.06	0.28	3.34	3.24	0.09	3.35	2.93	0.41	3.23	2.76	0.47***
	私はどんな能力を持っているのだろうか	4.28	3.94	0.34*	4.35	4.14	0.22	4.35	3.89	0.46	4.13	3.30	0.83***
	私の進路は、その進路に合っているのだろうか	4.07	3.82	0.25	4.15	3.91	0.24	4.30	3.72	0.59*	3.96	3.39	0.56***
	その進路は、その進路が必要とするくらいまで伸びるだろうか	4.05	3.77	0.28	4.09	3.85	0.24	3.63	3.59	0.04	3.96	3.10	0.86***
	私が自分で持っていると思う能力は、本当に他の人たちよりも優れているのだろうか	4.02	3.61	0.42*	4.07	3.92	0.15	4.13	4.00	0.13	3.87	3.25	0.61***
	自分の能力が不十分に思えても、その進路を選ぶべきだろうか	3.98	3.65	0.32	3.99	3.96	0.03	3.76	3.72	0.04	3.86	3.25	0.61***
	良い進路選択をするにはどんな手順を踏まなくてはならないのだろうか	4.02	3.83	0.19	4.03	4.03	0.00	4.15	3.78	0.37	3.96	3.12	0.84***
	これから選べる進路やその特徴について、どうしたら正確で最新の情報が手に入られるのだろうか	3.83	3.70	0.13	3.85	3.62	0.23	4.17	3.59	0.58**	3.77	2.96	0.81***
	良い進路選択をするにはどんなことを考慮に入れなくてはならないのだろうか	3.98	3.71	0.26	4.00	3.80	0.20	4.07	3.63	0.43	3.89	3.07	0.81***
	自分自身についての情報をもっと手に入れるにはどうしたらよいのだろうか	3.84	3.77	0.07	3.81	3.81	0.00	4.09	3.48	0.61**	3.79	3.07	0.73***
進路選択に好み	自分は進路に対してどんな好みがあるのだろうか	3.83	3.62	0.21	3.86	3.81	0.05	4.00	3.61	0.39	3.70	3.13	0.58***
	進路に対する私の好みやどれを最も優先すべきだろうか	3.76	3.58	0.18	3.85	3.66	0.19	3.74	3.50	0.24	3.64	3.10	0.54***
	その進路は本当に私の好みを現実化してくれるだろうか	3.82	3.33	0.48*	3.93	3.72	0.22	3.80	3.54	0.26	3.58	3.04	0.53***
	自分が進路に対して持っている好みは将来変わるのではないだろうか	3.76	3.38	0.38	3.80	3.59	0.20	3.65	3.43	0.22	3.57	2.94	0.63***
	進路に対する私の好みや現実化されなくても、その進路を選ぶべきだろうか	3.85	3.56	0.29	3.88	3.77	0.11	3.70	3.61	0.09	3.73	3.01	0.72***
	どんな進路に私は向いているのだろうか	4.62	4.11	0.52**	4.66	4.27	0.39*	4.48	3.96	0.52*	4.39	3.41	0.98***
	どんな進路に私は最も向いているのだろうか	4.59	4.26	0.33	4.61	4.22	0.39*	4.63	3.91	0.72***	4.47	3.43	1.04***
	自分では向いていると思う進路に、本当に向いているのだろうか	4.26	3.88	0.38	4.27	4.01	0.26	4.33	3.96	0.37	4.09	3.41	0.68***
	もし私が進んだ進路に向いていなくても、いずれ自分自身は変わっていきけるだろうか	3.73	3.44	0.29	3.72	3.80	-0.08	3.59	3.43	0.15	3.65	3.14	0.51***
	私から見えて向いていないように思えても、その進路を選ぶべきだろうか	3.98	3.58	0.40	3.99	3.86	0.12	3.78	3.67	0.11	3.82	3.13	0.69***
平均	3.80	3.54	0.26*	3.90	3.75	0.15*	3.89	3.55	0.34*	3.78	3.13	0.65***	

*p < 0.05, **p < 0.01, ***p < 0.001

図表10 インターンシップ実習時期と就職内定状況による進路選択の困難さに関するアンケートの結果（2-5～2-8）

分類	アンケート項目	(5)126 実習時期による比較			(6)内定状況による比較			(7)夏季実習生内定状況による比較			(8)春季実習生内定状況による比較		
		夏季	春季	差	内々定	未決定	差	内々定	未決定	差	内々定	未決定	差
思い描く進路の選択の困難さ	自分が進むことのできる進路にはどんなものがあるのだろうか	3.50	3.36	0.14	3.24	3.60	-0.36	3.14	3.80	-0.66	3.32	3.38	-0.06
	私が進むことのできる進路にはどんなものがあるのだろうか	3.57	3.42	0.14	3.28	3.69	-0.41*	3.17	3.90	-0.73*	3.38	3.46	-0.08
	その進路先ではどんなことをする(させられる)のだろうか	3.54	3.13	0.41*	3.28	3.39	-0.11	3.23	3.80	-0.58	3.32	2.95	0.38
	その進路に進んだらどんな資力が求められる(必要とされる)のだろうか	3.46	3.08	0.38	3.36	3.19	0.17	3.46	3.46	-0.01	3.27	2.90	0.37
	ふつう、その進路に進んだら後にはどういふコースをたどることになるのだろうか	3.32	2.97	0.34	3.19	3.10	0.09	3.20	3.41	-0.21	3.19	2.77	0.42
	その進路先の人たちは自分より多くやっていたのだろうか	3.47	3.45	0.03	3.58	3.35	0.23	3.46	3.49	-0.03	3.70	3.21	0.50
	その進路の特徴や性質(先進的、民主的、安定しているなど)は、将来変わってしまわないだろうか	3.09	3.00	0.09	3.08	3.01	0.07	2.97	3.20	-0.22	3.19	2.82	0.37
	その進路では私の優れた面や大学で学んだことが活かせるのだろうか	3.07	3.01	0.07	3.07	3.01	0.06	2.91	3.20	-0.28	3.22	2.82	0.40
	将来、もともと自分に向いた進路の選択が現れるのではないだろうか	3.22	3.16	0.07	3.21	3.18	0.03	3.11	3.32	-0.20	3.30	3.03	0.27
	私はどういふ方向の進路に興味がある(意欲を感じる)のだろうか	3.25	3.17	0.08	2.94	3.45	-0.51*	2.74	3.68	-0.94**	3.14	3.21	-0.07
興味や意欲	私はどういふ進路に最も強く興味を持っている(意欲を感じる)のだろうか	3.24	3.09	0.14	3.04	3.28	-0.23	2.91	3.51	-0.60	3.16	3.03	0.14
	その進路は私を持っている興味や意欲と本当に合ったところなのだろうか	3.37	3.20	0.17	3.28	3.29	-0.01	3.29	3.44	-0.15	3.27	3.13	0.14
	私が何に興味や意欲を持つつかということは将来変わってしまわないだろうか	3.04	2.99	0.05	2.96	3.06	-0.10	2.89	3.17	-0.29	3.03	2.95	0.08
	興味や意欲が持たないその進路でも選ぶべきなのだろうか	3.07	3.07	0.00	2.94	3.18	-0.23	2.77	3.32	-0.55	3.11	3.03	0.08
	採用される(合格とエネルギー)可能性があまりなくても、その進路を選ぶべきだろうか	3.25	3.16	0.09	3.25	3.16	0.09	3.14	3.34	-0.20	3.35	2.97	0.38
	たくさんいる時間とエネルギーが必要になるにもかかわらず、その進路を選ぶべきなのだろうか	2.92	2.89	0.03	2.90	2.91	-0.01	2.69	3.12	-0.44	3.11	2.69	0.42
	私が決意した進路のことを、私の大切な人たちにどうやって説得したらよいのだろうか	2.66	2.24	0.42*	2.39	2.50	-0.11	2.37	2.90	-0.53	2.41	2.08	0.33
	進路の計画を立てる上で、性別や年齢などによる差別をどうやって克服できるのだろうか	2.64	2.42	0.22	2.47	2.59	-0.12	2.49	2.78	-0.29	2.46	2.38	0.07
	自分にとって都合な土地に行くことになるその進路でも、選ぶべきなのだろうか	2.89	2.95	-0.05	2.89	2.95	-0.06	2.77	3.00	-0.23	3.00	2.90	0.10
	私は自分が計画する進路のために必要なお金をどうやって用意したらよいのだろうか	2.80	2.83	-0.03	2.78	2.85	-0.07	2.54	3.02	-0.48	3.00	2.67	0.33
能力	今の大学・学部・専攻は、目指す進路からすると不利なのだろうか	3.03	2.50	0.53*	2.78	2.75	0.03	2.74	3.27	-0.53	2.81	2.21	0.61*
	私はどんな能力を持っているのだろうか	3.28	3.29	-0.01	3.28	3.29	-0.01	3.14	3.39	-0.25	3.41	3.18	0.23
	その進路は本当に私の能力に合っているのだろうか	3.46	3.28	0.18	3.35	3.39	-0.04	3.31	3.59	-0.27	3.38	3.18	0.20
	私の能力は、その進路が必要とするくらいまで伸びるだろうか	3.11	3.09	0.01	3.15	3.05	0.10	2.94	3.24	-0.30	3.35	2.85	0.51
	私が自分で持っていると思う能力は、本当に他の人たちよりも優れているのだろうか	3.34	3.16	0.18	3.33	3.18	0.16	3.11	3.54	-0.42	3.54	2.79	0.75*
	自分の能力が不十分に思えても、その進路を選ぶべきだろうか	3.34	3.09	0.25	3.18	3.25	-0.07	3.03	3.61	-0.58	3.32	2.87	0.45
	良い進路選択をするにはどんな手順を踏まなくてはならないのだろうか	3.04	3.24	-0.20	3.00	3.26	-0.26	2.63	3.39	-0.76**	3.35	3.13	0.22
	これから選べる進路やその特徴について、どうしたら正確で最新の情報が手に入られるのだろうか	2.95	3.04	-0.09	2.82	3.15	-0.33	2.51	3.32	-0.80**	3.11	2.97	0.13
	良い進路選択をするにはどんなことを考慮に入れなくてはならないのだろうか	3.03	3.14	-0.12	2.92	3.24	-0.32	2.60	3.39	-0.79**	3.22	3.08	0.14
	自分自身についての情報をもっと手に入れるにはどうしたらよいのだろうか	3.08	3.08	0.00	2.97	3.18	-0.20	2.77	3.34	-0.57	3.16	3.00	0.16
進路選択の好み	自分は進路に対してどんな好みがあるのだろうか	3.07	3.22	-0.16	3.01	3.26	-0.25	2.80	3.29	-0.49	3.22	3.23	-0.01
	進路に対する私の好みはどれを最も優先すべきだろうか	3.11	3.03	0.08	3.00	3.13	-0.13	2.80	3.37	-0.57*	3.19	2.87	0.32
	その進路は本当に私の好みを実現してくれるだろうか	3.05	3.01	0.04	3.06	3.01	0.04	2.86	3.22	-0.36	3.24	2.79	0.45
	自分が進路に対して持っている好みは将来変わるのではないだろうか	2.88	3.07	-0.18	3.01	2.94	0.08	2.66	3.07	-0.42	3.35	2.79	0.56
	進路に対する私の好みは実現されなくても、その進路を選ぶべきだろうか	3.07	2.95	0.12	3.07	2.95	0.12	2.89	3.22	-0.33	3.24	2.67	0.58*
	どんな進路に私は向いているのだろうか	3.51	3.29	0.22	3.29	3.50	-0.21	3.26	3.73	-0.47	3.32	3.26	0.07
	どんな進路に私は最も向いているのだろうか	3.61	3.25	0.36	3.35	3.50	-0.15	3.40	3.78	-0.38	3.30	3.21	0.09
	自分では向いていると思う進路に、本当に向いているのだろうか	3.45	3.30	0.14	3.33	3.41	-0.08	3.26	3.61	-0.35	3.41	3.21	0.20
	もし私が進んだ進路に向いていなくても、いずれ自分自身は変わっていきけるだろうか	3.20	3.08	0.12	3.14	3.14	0.00	3.06	3.32	-0.26	3.22	2.95	0.27
	私から見えて向いていないように思えても、その進路を選ぶべきだろうか	3.16	3.05	0.11	3.15	3.06	0.09	2.97	3.32	-0.35	3.32	2.79	0.53
平均	3.18	3.07	0.11	3.16	3.08	0.06	2.95	3.37	-0.42*	3.21	2.93	0.27	

*p < 0.05, **p < 0.01